

Listen and Speak! らくらく英検2級 II

～ 英語ができる人になる ～

第3回 Living in a big city vs. living in the country 日本語訳

* はじめに *

ようこそ “Listen and Speak! らくらく英検2級 セカンドシリーズ”へ。

この番組は英検でおなじみの、日本英語検定協会がお送りする、全ての『英語ができる人』になりたい人たちのための番組です。これから英検2級や準2級を目指す人はもちろん、さらにその上を目指して、本当に『英語ができる人』になりたいというあなたにとって必ず役に立ちますよ。後半はちょっと難しかったり、大変だったりするかもしれませんが、私、伊藤太と頼れるパートナーの Gary Scott Fine がしっかり『英語ができる人』になりたいあなたをサポートします。

この番組はあなたが英検の試験で合格するのに役立つだけではなく、あなたの英語力、とくに聞く力と話す力を高めるのに役立つことでしょう。しかし、この番組の本当の目的は英語そのもの以上のものを学びとるお手伝いをすることです。

私たちはあなたが英語をできるかどうかだけではなく、あなたが英語を使って何ができるかに興味をもっています。

Program Number 3 “Living in a big city vs. living in the country”

さて、今回のタイトル “Living in a big city vs. living in the country” は「大都市での生活対 田舎での暮らし」というような意味です。「地方分権」「地方と大都市圏の格差」など、地方と都市に関する問題は最近よく取り上げられる話題の一つです。この問題については特に **Challenge** のコーナーで取り上げるつもりですが、今回、文法としてはネイティブスピーカーが感じる「不定詞と動名詞の違い」を扱い、後でゲーリーにたっぷり解説してもらいますので楽しみにしてくださいね。それでは、この後のヒントになるかもしれないので、まずはゲーリーと私の会話を聞いてください。

■Introduction (導入の対話)

- G: やあ、フトシ。夏休みはどうだった？ 田舎に帰ったんだよね。
- F: 残念ながら帰れなかったんだよ。ずっと田舎に帰省して友達と会いたいと思ってたんだけどね。でも、すごい量の仕事があって一日も休みが取れなかったよ。
- G: それは残念だね。気の毒に思うよ。ところで、君の田舎は今どのくらいの人が住んでるのかな？ 小さな町や小都市では人がどんどん減ってるよね。
- F: うーむ、僕が生まれた町では、そうだな、今 1 万人くらいの方が住んでるね。ワオ！ 東京の人口は 1,300 万人だろ。うちの田舎町の千倍だよ！ すごっ！
- G: ああ、あのね、フトシ、僕が言いたいのは…
- F: はいはい！ 分かってるよ。東京の面積は僕の田舎町の面積とほぼ同じなんだ。でも、東京の人口はずっとすごい、千倍以上だよ！ ということはだ、たとえ君が僕の田舎町にあるプールでゆったり一人で泳ぎを楽しめるとしても、もし東京なら一つのプールに 1,000 人と一緒にぎゅうぎゅう詰めになるしかないってことだよ！ それって恐ろしいよね？
- G: ああ、フトシ。そんなに単純じゃないよ。君の理屈にはたぶん問題があるよ。覚えてるよね、君は以前僕にこう言ってたよ。高校生のとき田舎町でロックコンサートを開いたら、観客は全部でたったの 10 人だったって。
- F: ああ、そう言ったよ。で、それがどうしたの？
- G: あのね、もしスイミングプールについての君の理屈が正しいとすればだよ、だとすれば、東京だったら君のバンドを観に来た人たちは少なくとも 1 万人だったことになるだろ。
- F: そうだよ！ 1 万人が僕らのコンサートに来てたってことだよ！ それこそ大都市のメリットってものだ。東京に生まれてさえいたらなあ、あんなちっぽけな町じゃなくて！
- G: おいおい、自分の田舎町が心配じゃないのかい？ あのね、人の数はどんどん少なくなって…
- F: いいや、全く心配してないね。僕に何の関係もないし。
- G: 本気かい？ つじつまが合わないよ。君が言ってることは一貫してないし矛盾しているようだけど。
- F: うーむ、確かにそうだねえ。僕は東京はひどいって言ってすぐさま東京は素晴らしくて自分は田舎のことなんて心配してないって言ったからね。この問題については僕の気持ちも実のところかなり複雑なんだ。僕らは後でこの問題について話し合うべきだと思わない？
- G: ああ、そうしよう。さあ、じゃあ今日の始めてもいいかな？
- F: うん、そうしよう。それでは…
- G/F: 始めよう！

1 Exercise 1 dialogue (対話)

これから流れる男女の対話を聞いて、後の問いに答えてください。これから流れる対話は過去の英検に出題されたリスニング問題の一つです。実際の問題は、対話を聞いてから適当な選択肢を選ぶ形式ですが、ここではちょっと頑張って、ゲーリーの質問に自分の言葉を使って英語で答えてみるようにしてください。いいですか、もう一度言いますよ。対話を聞いた後、ゲーリーの質問に自分の言葉で答えてくださいね。二次試験の面接対策にもなりますし、とても役に立ちますよ。それでは、始めます。

対話を聞いて次の質問に答えなさい。 【2013年度第2回 2級第11問】

男性：もしもし。

女性：こんにちは、こちらはエイ・ワン・インダストリーズのベス・ナイトです。販売の仕事についてあなたにまたインタビューしたいのですが、今週のどこかで当社のオフィスに再度お越しいただいてもよろしいでしょうか。

男性：水曜日と木曜日は空いていますよ。このどちらかで都合がつかますか。

女性：木曜日の午前中はいかがでしょう。9時ちょうどにお越しいただけますか。

男性：分かりました。ちょうどいいですね。またお会いするのを楽しみにしています。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問： ハーマン氏は木曜日の午前中何をしますか、そしてそれをどこでしますか。

それでは、語彙と会話の表現について確認をしましょう。

■語彙と表現を学ぼう

私の日本語を聞いて、ゲーリーに続いて英語で発音してください。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 最高の | A-One ["A1"と書くことが多い] |
| 2. 産業、工業 | industry |
| 3. ~の予定を決める | schedule ~ |
| 4. 今週のどこかで | sometime this week |

それでは、少し答え方についてヒントを出しましょう。女性は最初の発言の中で “This is Beth Knight from A-One Industries.” と言っています。from から分かるようにこの A-One Industries というのは会社名のようです。あえて日本語風に言えば「最高産業株式会社」と格好悪く聞こえてしまいます。やはり固有名詞はそのまま訳さない方がいいですね。さて、Question は What is Mr. Herman going to do on Thursday morning, and where is he going to do it? です。What だけでなく Where にも答えなければなりません。それから、「インタビューを受ける」という表現に注意しましょう。“receive an interview”とは言いません。また、“have an

interview”は「インタビューする」という意味です。インタビューを受ける場合には“be interviewed”と言います。それでは、この点に注意してもう一度聞いてみましょう。

対話を聞いて次の質問に答えなさい。 【2013年度第2回 2級第11問】

男性：もしもし。

女性：こんにちは、こちらはエイ・ワン・インダストリーズのベス・ナイトです。販売の仕事についてあなたにまたインタビューしたいのですが、今週のどこかで当社のオフィスに再度お越しいただいてもよろしいでしょうか。

男性：水曜日と木曜日は空いていますよ。このどちらかで都合がつかますか。

女性：木曜日の午前中はいかがでしょう。9時ちょうどのにお越しいただけますか。

男性：分かりました。ちょうどいいですね。またお会いするのを楽しみにしています。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問：ハーマン氏は木曜日の午前中何をしますか、そしてそれをどこでしますか。

■模範解答

模範解答を聞いて、大事な点を考え、自分の答えと比較してください。

質問：ハーマン氏は木曜日の午前中何をしますか、そしてそれをどこでしますか。

He is going to be interviewed for the sales job at the office of A-One Industries.

彼はエイ・ワン・インダストリーズのオフィスで販売の仕事についてインタビューを受けます。

では少し確認しましょう。初めの説明の通り、インタビューを受ける場合には **He is going to be interviewed**～.と動詞の **interview** を使って受動態にします。この点に注意すれば、後はインタビュー・会談の目的を表す **for the sales job**、そして場所の **at the office of A-One Industries** を続けるだけです。

さて、ここからは少し文法に触れたいと思います。前回は不定詞について説明しましたが、今回は不定詞と動名詞の違いについて説明したいと思います。

今回の英文の中に、**would like to** ～ / **look forward to** ～ と二つの **to** を使う表現が出てきましたが、**would like to** は不定詞、**look forward to** は動名詞を使います。

前回、**to** 不定詞の **to** は「方向性」を表すことを説明しましたね。**want / hope** などの「願望」や **seem / appear** などの「推測」を表す動詞の後ろでは「願望や推測の方向性」を表す **to** 不定詞が自然に使われます。一方、動名詞は「行為そのもの」を表すので基本的には **to** 不定詞のような「方向性」はありません。この点も含めて少し **Gary** に英語で説明してもらいたいと思います。

さあ、それでは、2つの例を挙げましょう。その違いについて考えましょう。

一つ目は： **I hope to see you soon.** （近いうちにあなたに会えたらいいなと思います。）

次は： **I look forward to seeing you soon.** （もうすぐあなたに会うのが楽しみです。）

私たちはよくこれら二つの表現を会話や E メール最後に使いますね。二つの違いを説明できますか。それでは、説明する前にもう二つ例を挙げたいと思います。よく聞いて、不定詞の使い方と動名詞の使い方を区別するようにしてください。

She wanted to visit the temples. （彼女はその寺院を訪ねたかった。）

And,

She enjoyed visiting the temples. （彼女はその寺院を訪ねて楽しかった。）

初めの例、“**She wanted to visit the temples,**” は必ずしも彼女が実際に訪ねる、あるいは首尾よく訪ねることができたとは言っていません。対照的に、後の例、“**She enjoyed visiting the temples,**” は明らかにその寺院を実際に訪ねた、あるいは首尾よく訪ねることができたことを示唆しています。私たちは動名詞をともなって表現される行為は成し遂げられた、実際の、または、まざまざとしたように感じます。一方、不定詞をともなって表現される行為は成し遂げられても実現してもいないかもしれないのです。不定詞は単に可能性と不確実性を示唆するだけなのです。

うーむ、興味深いですね。ありがとう、ゲーリー。

確かに、動名詞で表される動作は「実際に行われている」、または「行われた」感じがするのに対して、不定詞の方では「不確定」な感じがしますね。

それでは、さっきの例、“**I hope to see you soon**” と “**I look forward to seeing you soon.**” に戻ってみましょう。

はい。私たちは、“**I look forward to seeing you soon,**” と言ったり書いたりするとき、近いうちにお互いに会うことをしっかりと確信しています。しかし、“**I hope to see you soon,**” と言うときは、近いうちに実際に会うかどうかについてあまりはっきりしていないのです。

さあ、ゲーリーの説明が理解できましたか。中には日本語の説明より分かりやすいと感じた人もいるかもしれませんね。何回も聞き直したり、真似してみたりして、自分でも同じように英語で英文法を説明できるようになると楽しいですよ。ぜひ、チャレンジしてみてください。

2 Exercise 2 passage (文章)

このエクササイズでは、短い文章が読まれた後にゲーリーが一つ質問をしますので、自分が思ったことを自由に答えてください。主語と正しい答え方に注意して、聞かれたことに対してまっすぐ答えてくださいね。

英文を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年第1回 2級第30問】

1891年、ジェームス・ネイスミスという男性がバスケットボールを考案しました。彼は体育の教師だったのですが、冬の間でも身体を鍛えておけるようにする屋内スポーツを作り出したかと思っていました。彼はプレーヤーらがサッカーボールをカゴの中に投げ入れる試合を考えついたのです。その試合は運動をするのにとっても楽しめる方法だったので、すぐに世界中に広まりました。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問：あなたはバスケットボールの普及に役立ったのは何だと思いますか。本文の中で述べられていないものを一つ答えてください。

さあ、きちんと聞き取れましたか。それでは、少し語彙と英文の表現を確認しましょう。

■語彙と表現を学ぼう

私の日本語を聞いて、ゲーリーに続いて英語で発音してください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. ~を発明する、考案する | invent ~ |
| 2. 体を鍛える、体調を維持する | stay in shape |
| 3. 楽しめる | enjoyable |
| 4. 広がる、広まる | spread |

この passage によれば、1891年に James Naismith という gym teacher がバスケットボールを開発したとのこと。He wanted to create an indoor sport that would allow people to stay in shape during the winter. 冬の間も stay in shape できるように、というのが考案の目的だったんですね。試合が enjoyable だったことが、バスケットボールの世界的普及、spread around the world の理由として挙げられていますね。理由はそれだけでしょうか。他の理由も考えて答えてください、というのが question の要求ですね。それではこの点にも注意して、もう一度聞いてください。

英文を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年第1回 2級第30問】

1891年、ジェームス・ネイスミスという男性がバスケットボールを考案しました。彼は体育の教師だったのですが、冬の間でも身体を鍛えておけるようにする屋内スポーツを作り出したかと思っていました。彼はプレーヤーらがサッカーボールをカゴの中に投げ入れる試合を考えついたのです。その試合は運動をするのにとっても楽しめる方法だったので、すぐに世界中に広まりました。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問：あなたはバスケットボールの普及に役立ったのは何だと思いますか。本文の中で述べられていないものを一つ答えてください。

■模範解答

模範解答を聞いて、自分の答えと比べてください。

質問：あなたはバスケットボールの普及に役立ったのは何だと思いますか。本文の中で述べられていないものを一つ答えてください。

I think that using the hands instead of the feet contributed to the spread of the sport because most people are more used to doing things with their hands than their feet.

大抵の人は足よりも手を使う方に慣れているので、足ではなく手を使うことがこのスポーツの普及に役立ったと私は思います。

Or または

I think the fact that a large number of gym teachers had the same problem as the inventor of basketball might be related to its spread.

私は、多くの体育教師がバスケットボールの発案者と同じ問題を抱えていたという事実が、その普及に関連しているのではないかと思います。

さあ、どうでしたか。別の理由を自分で考えて答えるというのは結構難しかったかもしれませんがね。ただし、実際の会話ではほとんど自分で考えて答えなければなりません。モデルアンサーを参考にして、自分でもさらに別の理由をしっかりと伝えられるように練習してみてください。こうした練習は『英語ができる人』になるのに、とても役に立ちますよ。

■英文を使った反復練習

さあ、ここからは、放送された英文について Repetition Drill を行います。repetition は反復でしたね。ポーズの間にゲーリーの英語をできるだけそっくり真似してみましょ。単語の発音だけでなく、イントネーションや雰囲気も真似してくださいね。

1) 反復練習

それぞれにポーズの間に反復してください。何度も繰り返して練習してくださいね。そうすれば、きつともっと上手くできるようになりますよ。準備はいいですか。それでは、始めます。

In 1891, /
a man named James Naismith /
invented the sport of basketball. //
He was a gym teacher, /
and he wanted to create an indoor sport /
that would allow people to stay in shape during the winter.//
He had the idea of making a game /
where players threw a soccer ball into a basket. //
The game was an enjoyable way to get exercise /
and soon spread around the world. //

どうでしたか。上手に真似ができると楽しいですね。さあ、次は『英語ができる人』は必ずと言っていいほど練習するシャドウイングにいきます。私が実際、少しシャドウイングのお手本を示しますね。ゲーリーの後に続いてシャドウイング、つまり、ゲーリーの言葉の影を追うような形で、聞きながらゲーリーの言葉を真似していきます。

2) シャドーイング練習 1

聞きながら、それぞれのパートごとにシャドーイングしてください。

(G → F)

In 1891, /
a man named James Naismith /
invented the sport of basketball. //
He was a gym teacher, /
and he wanted to create an indoor sport /
that would allow people to stay in shape during the winter.//
He had the idea of making a game /
where players threw a soccer ball into a basket. //
The game was an enjoyable way to get exercise /
and soon spread around the world. //

要領はつかめましたね。次は実際に自分で shadowing にチャレンジしてください。shadowing は自分で speaking をするという負荷をかけながら listening をするので、筋トレと同じように「耳トレ」になります。必ず listening の能力が向上しますので、できるまで何度でも繰り返してください。

聞く音声の方を大きくして、自分の声はあまり聞こえないようにすると一層効果が上がりますよ。

2) シャドーイング練習 1

聞きながら、それぞれのパートごとにシャドーイングしてください。
準備はいいですか。それでは、始めます。

In 1891, /
a man named James Naismith /
invented the sport of basketball. //
He was a gym teacher, /
and he wanted to create an indoor sport /
that would allow people to stay in shape during the winter.//
He had the idea of making a game /
where players threw a soccer ball into a basket. //
The game was an enjoyable way to get exercise /
and soon spread around the world. //

どうですか。できるようになるとすごく楽しいし、やりがいがあるでしょう。次はセンテンスの途中に区切りはありませんよ。各センテンスの間も短いですから、一気にパッセージ全体をシャドウイングできるように頑張ってくださいね。できたらとても達成感が得られますよ。

3) シャドーイング練習 2

センテンスの全体を最初から最後までシャドーイングしてください。何度も練習してくださいね。きっと達成感が味わえるはずです。準備はいいですか。それでは始めます。

In 1891, a man named James Naismith invented the sport of basketball. //
He was a gym teacher, /
and he wanted to create an indoor sport that would allow people to stay in shape during the winter.//
He had the idea of making a game where players threw a soccer ball into a basket. //
The game was an enjoyable way to get exercise and soon spread around the world. //

3 Challenge passage & opinion (文と意見)

さて、いよいよ最後のエクササイズ、チャレンジのコーナーです。ここからは一気に英語だけで進めていきますから、しっかり集中してくださいね。

次の英文を聞いて、ゲーリーの質問に答えてください。【2013年第3回 準2級 第21問】

レイチェルは大学生の頃、卒業後は大都市にある企業で働きたいと思っていました。しかし、彼女のボーイフレンドは農場で育ったため、彼女に卒業後は自分と結婚して農場に戻ろうと求めました。当初、レイチェルは農場での仕事は自分には難し過ぎるのではと心配していましたが、今は新夫とともに田舎で暮らすことを満喫しています。

さて、これからゲーリーがこの文について幾つか重要な点を挙げ、そして質問をします。その質問に答えてください。できるだけ上手く自分の意見を表現できるようにしてください。

この文によれば、レイチェルという名前の若い女性はボーイフレンドと結婚して農場で新しい生活を送ることを決心しました。彼女は大都市の企業で働きたいと思っていたし農場での仕事に不安があったのですが、今は田舎暮らしを満喫しています。都会生活も田舎での生活も両方ともに様々な種類の長所と短所があると思います。今回は追加的な情報を示さずに質問をしたいと思います。

あなたは、大都市と田舎のどちらで生活する方を好みますか。短所と長所に言及しながら、自分の答えを説明してください。

■模範解答

さあ、フトシの言うことに耳を傾けてみましょう。彼が模範解答を提示します。よく聞いて自分の答えと比べてください。

大都市での生活と田舎での生活にはそれぞれ長所があります。

都会の生活であなたは興味深い場所へ行く機会をより多く得ることができます。たくさんのいいレストラン、劇場、デパートなどがあります。あなたは最新の流行と傾向についていけるのです。しかし、私にとってそうした物質世界にあるような物事に接する機会があるかどうかはどうでもいいことなのです。

一方、田舎には外的な刺激も即物的な満足もずっと少ないかもしれませんが、私たちは自分自身の内側により多くの満足感を静かに見いだすことができるかもしれません。小鳥のさえずりに目を覚まし、新鮮な朝の空気を吸い込んで、一日を始めることができます。森の中に足を踏み入れれば、自分が自由だと感じるでしょう。高いビルに囲まれた人工の「森」の中で晒される騒音や情報の洪水に邪魔されることなく、自由に友人と語り、自由に自分自身に語りかけることができます。だから、私は田舎で静かな生活を送り内的な自由をより多く見

い出すことができると思います。

もちろん、実際には楽園もユートピアも存在しないのですから、田舎暮らしにも短所もあります。私たちはより大切だと思うことと引き換えに多くの不便を我慢しなければならないことを理解する必要があります。

ですから、全体的に見れば、大都市での生活も田舎での生活もそれぞれ長所と短所がありますが、私は田舎で暮らす方を好みます。

どうでしたか。フトシの言ったことは聞き取れましたか。彼の主張の要点は分かりましたか。オーケー、それでは、彼がたった今言ったことを説明しますから、よく聞いてください。

はい、ゲーリーはまず、レイチェルという若い女性が、大都市にある大企業で働きたいと思っていたにもかかわらず、結婚して田舎で暮らす決心をしたこと、そして初めは不安だったけれど、今は田舎の生活を楽しんでいるという本文の内容を要約してくれました。

そして、都会の生活と田舎の生活のどちらにも長所と短所があるとした上で、今回は単刀直入に、あなたは都会と田舎のどちらで暮らしたいか、長所と短所を挙げながら説明するように求めました。

これに対して私は、どちらにも長所と短所があると前置きをした上で、まずは都会生活の利点を挙げ、次に対比的な視点から田舎暮らしの利点を挙げました。「譲歩」に当たる都会生活の利点には、物質的 **material**, 外的 **external**, **stimuli**, 即物的かつ動的 **immediate**, **instant** などの側面に触れた後、「主張とその根拠」に当たる田舎暮らしの利点については、反対に、精神性 **satisfactory feelings**, 内的 **inner**, **within ourselves**, 静的 **quiet** 等を挙げて対比の軸を立てて主張を補強したことに気が付きましたか。

その上で、田舎暮らしにも短所があることに軽く触れて、その心構えにも言及した後、結局のところ、田舎暮らしの方がよいとの「結論」つまり主張の再提示で締めくくりました。

ぜひ、英検の公式ウェブサイトからスクリプトをダウンロードして、英文とダイアグラムを確認してください。前回までのものと比較すると一層効果的です。

さあ、フトシの話をもう一度聞いてみましょう。よく注意して聞き、彼の意見の表現方法に注目してください。

大都市での生活と田舎での生活にはそれぞれ長所があります。

都会の生活であなたは興味深い場所へ行く機会をより多く得ることができます。たくさんおいしいレストラン、劇場、デパートなどがあります。あなたは最新の流行と傾向について行けるのです。しかし、私にとってそうした物質世界にあるような物事に接する機会があるかどうかはどうでもいいことなのです。

一方、田舎には外的な刺激も即物的な満足もずっと少ないかもしれませんが、私たちは自分自身の内側により多くの満足感を静かに見出すことができるかもしれません。小鳥のさえずりに目を覚まし、新鮮な朝の空気を吸い込んで、一日を始めることができるのです。森の中に

足を踏み入れれば、自分が自由だと感じるでしょう。高いビルに囲まれた人工の「森」の中で晒される騒音や情報の洪水に邪魔されることなく、自由に友人と語り、自由に自分自身に語りかけることができるのです。だから、私は田舎で静かな生活を送り内的な自由をより多く見いだすことができると思います。

もちろん、実際には楽園もユートピアも存在しないのですから、田舎暮らしにも短所もあります。私たちはより大切だと思うことと引き換えに多くの不便を我慢しなければならないことを理解する必要があります。

ですから、全体的に見れば、大都市での生活も田舎での生活もそれぞれ長所と短所がありますが、私は田舎で暮らす方を好みます。

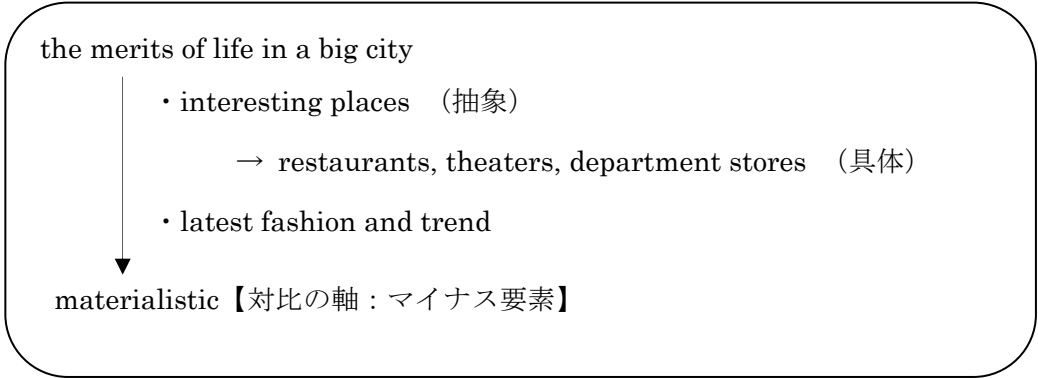
<DIAGRAM>

前提

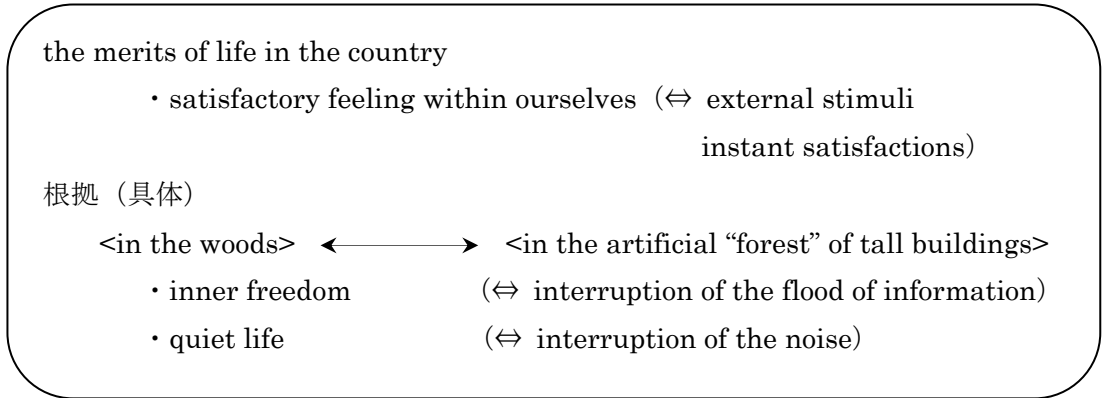
advantages & disadvantages (each = big city / country)



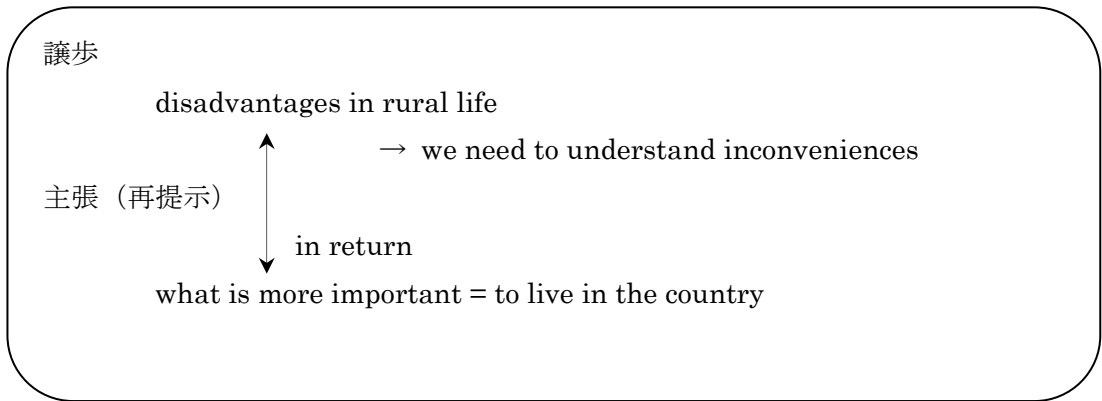
譲歩



主張



結論 (譲歩+主張の再提示) ↓



■結びの対話

G: フトシ、今回、僕らは「大都市での生活」対「田舎での生活」について話し合ったよね。初めはどちらがいいかを言うのは簡単そうに思えたけれど、実際にはそう簡単ではないね。

F: そうだね、その通りだよ。「自然は美しい」とは「田舎で暮らすほうがリラックスできる」とか言うだけなら簡単かもしれない。だけど、実のところは、我々が思い描くことは全て相反する方向に向かっていくようにも思えるかな…

G: つまり、君が言いたいのは、一方で我々は地方の手付かずの自然の長所を強調しつつ、だけど、もう一方では経済的には地方も都市部のように発展する姿を見たいということかな。

F: そうだね。だけど、僕はどうして、特に我々のように都会に暮らす人々はこうした問題を両極から考えたがるんだろうって思うんだ。とても矛盾してるように思えるんだよね。

G: そうだな。だけど、矛盾それ自体が都市に生きる人間の本質だよ。僕らは田舎の自然を愛しそれに憧れる一方で、地方へのツアーの申込書に「東京」とか「横浜」とか書くときには優越感を感じているわけさ。

F: ふーむ、よく分かるなあ。「女性専用車両」を毛嫌いする一方で、君は、女性専用車両に乗り込みたいという抑えきれない願望を持っているようだ。

G: そんなわけないだろ！

さあ、今回のレッスンはどうでしたか。後半は少し難しかったかもしれませんね。ぜひ、英検のウェブサイトからスクリプトをダウンロードして復習してください。それから何度も聞き直して、自分でも話せるように練習してみてくださいね。Repetition や Shadowing だけでなく、話す内容の構成を組み立てること、そして相手に伝えること、こうしたトレーニングを続ければ、あなたも必ず『英語ができる人』になります。

ところで今回、セカンドシリーズ第3回目のタイトルは“Living in a big city vs. living in the country”でした。これは、地方と都市の格差是正、自治体消滅、地方創生など、私たちにとって実は古くて新しい問題なのかもしれません。文法面では「ネイティブスピーカーが感じる不定詞と動名詞の違い」を取り上げました。こちらの方もじっくり掘り下げてみてください。それでは、こうした学びを通してぜひ『英語ができる人』を目指してくださいね。

Well, then...

See you next time!

<講師陣プロフィール>

伊藤 太 (Futoshi Ito)

大手予備校・有名進学塾等で英語講師を務め、東大クラス・医学部コース等を担当。作成した教材から東大・筑波大等の入試長文問題を的中。コーチングを取り入れた研修方法を確立し、数多くの講師・教員の授業力・授業アンケート向上に寄与。現在、多数の私立学校にコンサルタント、アドバイザーとして関わるとともに、ネイティブスピーカーを含む学校教員・予備校講師（100名超）のコーチを務める。

ゲイリー・スコット・ファイン (Gary Scott Fine)

オレゴン州ポートランド出身。スタンフォード大学大学院修士課程修了（東アジア研究）、南カリフォルニア大学大学院修士課程修了（映画・テレビ研究）。現在、東海大学外国語教育センター准教授。主な研究テーマはエンターテインメントメディアを通じた第二言語習得。

朝日新聞・土曜版、『ENGLISH JOURNAL』（アルク）、『CNN ENGLISH EXPRESS』（朝日出版社）に映画・ドラマに関わる英語コラムを連載中。NHK 教育テレビ、アルクヒアリングマラソン等多数の番組で出演及びテキスト執筆で活躍。